令和６年用うめ病害虫防除基準

発　行：ＪＡさがえ西村山・谷沢梅生産組合

●農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
●農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
●この基準は、令和５年10月１日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度（水100ℓ当たり薬量）	収穫前使用日数	総使用回数	散布量	注意事項（収穫前使用日数、総使用回数）	防除履歴
① 発芽前 （３月中旬）		１．水 （90ℓ）			350ℓ	１．品種や系統によって発芽、開花期が異なることがあるので、適期防除に努める。	散布日 月　日 散布量 ℓ
		２．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）					
	縮葉病 （黒星病）	３．石灰硫黄合剤 10倍（10ℓ）	発芽前	－			
かいよう病重点防除 ② 落花直後	黒星病 灰色かび病 環紋葉枯病 灰星病 すす斑病	１．ベルクートフロアブル 2,000倍（50mℓ）	30日前まで	３回以内	300ℓ	１．ベルクート水和剤は、りんご・西洋なしにサビ果等の薬害が出るので注意する。 ２．ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒＢ５　1,000倍を加用する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	かいよう病	２．マイコシールド 1,500倍（66g）	21日前まで	４回以内			
	アブラムシ類	３．ウララＤＦ 2,000倍（50g）	７日前まで	２回以内			
③ 前回散布 ７日後 （５月上旬）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ	１．ホウ素欠乏の症状がある場合は、ヨーヒＢ５　1,000倍を加用する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	黒星病 黒粒枝枯病 灰星病 環紋葉枯病	２．トップジンＭ水和剤 1,500倍（66g）	21日前まで	３回以内			
	かいよう病	３．マイコシールド 1,500倍（66g）	21日前まで	４回以内			
		黒星病重点防除 １．この時期から黒星病の胞子飛散盛期に入るので、６月中旬まで散布間隔を10日以上あけないよう定期散布に努める。					
④ ５月中旬 （５月15日頃）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ	１．この時期以降日中の高温時の散布はさける。（25℃以内） ２．前年黒星病の多発園地ではサルファーゾルに替えて、スコア顆粒水和剤3,000倍（前日まで、３回以内）を使用してもよい。 ３．かいよう病が多い園では、マイコシールド1,500倍（21日前まで、４回以内）を散布する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	黒星病	２．サルファーゾル 500倍（200mℓ）	－	－			
	アブラムシ類 ケムシ類	３．マブリック水和剤20㊐ 4,000倍（25g）	21日前まで	２回以内			
⑤ ５月下旬 （５月25日頃）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ	１．コスカシバの防除には、スカシバコンＬを10ａ当り40～100本を設置する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
	黒星病	２．サルファーゾル 500倍（200mℓ）	－	－			
	アブラムシ類 ハマキムシ類	３．ダイアジノン水和剤34㊐ 1,000倍（100g）	21日前まで	２回以内			
⑥ ６月上旬 （６月５日頃）		１．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）			400ℓ		散布日 月　日 散布量 ℓ
	黒星病 すす斑病 灰星病	２．ナリアＷＤＧ 2,000倍（50g）	７日前まで	２回以内			
	アブラムシ類 カイガラムシ類	３．モスピラン顆粒水溶剤㊐ 2,000倍（50g）	前日まで	３回以内			
⑦ ６月中旬 （６月15日頃）	黒星病 すす斑病 （灰星病）	１．オーシャインフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	３回以内	400ℓ	１．アブラムシ類の発生が多い園では、スタークル顆粒水溶剤2,000倍（前日まで、３回以内）を使用してもよい。	散布日 月　日 散布量 ℓ
⑧ ７月中下旬 （収穫後）	黒粒枝枯病 黒星病 環紋葉枯病	１．トップジンＭ水和剤 1,500倍（66g）	21日前まで	３回以内	400ℓ	１．黒粒枝枯病の被害枝は見つけ次第剪除し、土中深く埋没する。 ２．**カイガラムシ類の発生が多い園では８月上中旬にアプロードフロアブル1,000倍（７日前まで、２回以内）を枝幹に十分かかるようていねいに散布する。**	散布日 月　日 散布量 ℓ
	アブラムシ類 ハマキムシ類	２．スミチオン乳剤 1,000倍（100mℓ）	14日前まで	２回以内			
	ハダニ類	３．ダニオーテフロアブル 2,000倍（50mℓ）	前日まで	１回			
【特別】 落葉後	コスカシバ	１．ラビキラー乳剤㊐ 200倍（500mℓ）	落葉後～発芽前 （休眠期）	２回以内	350ℓ	１．出来るだけ温暖な日（10℃以上）を選んで散布する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
【特別】 落葉後		１．水 （90ℓ）			350ℓ	１．例年、融雪が遅いところでは落葉後散布する。	散布日 月　日 散布量 ℓ
		２．展着剤（ハイテンパワー） 10,000倍（10mℓ）					
	カイガラムシ類 ハダニ類 越冬病害虫	３．石灰硫黄合剤 10倍（10ℓ）	発芽前	－			

耕種的防除

全般	１．適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 ２．園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
カイガラムシ類	１．休眠期に粗皮削り、高圧水による洗流しやブラシがけを行う。 ２．見つけしだい捕殺する。

うめ施肥基準（成木：10a 当り）

品種・目標収量	肥料名	施肥量（kg）	施肥時期	N	P	K	備考
谷沢梅 1,500kg	燐硝安加里S248 （わかみどり）	10kg	収穫直後	2.0	0.4	0.8	うめの施肥は収穫後できるだけ早く行い、分解・吸収させ、花芽の充実と貯蔵養分の確保に努めましょう。※若木については新梢の停止が遅れると、冬の凍害による幹割れからくる胴枯病の併発が懸念されるので、極力減肥し、有機物や土壌改良剤の施用に力点をおきましょう。
	フレッシュ フルーツ有機70	80kg	７月下旬	8.0	4.0	1.6	
	合計			10.0	4.4	2.4	